

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人優和

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

組織の目的は凡人をして非凡なことを行わせること (P. F. ドラッカー)

1. 組織の目的は、凡人をして非凡なことを行わせることにある。天才に頼ることはできない。天才はまれである。あてにできない。凡人から強みを引き出し、他の者の助けとすることができるか否かが、組織の良否を決定する。同時に、組織の役目は人の弱みを無意味にすることである。要するに、組織の良否は、そこに成果中心の精神があるかどうかによって決まる。
2. 人間は多様である。しかも、でこぼこした存在である。あることを得意とし、あることは不得意とする。得意なことを伸ばすのは簡単だが、不得意なことを直すのは至難である。そこで不得意なことを意味のないものとし、得意なものを引き出して組み合わせることが必要になる。ところが、組織の中に、何事も成果を中心に考え、行動するという成果中心の精神が根付いているならば、人びとの得意なことだけを組み合わせるといふ手品が、いとも簡単に行える。
3. 成果中心の精神を高く維持するには、配置、昇給、昇進、降級、解雇など人事に関わる意思決定こそ、最大の管理手段であることを認識する必要がある。それら決定は、人間行動に対して数字や報告よりもはるかに影響を与える。組織の中の人間に対して、マネジメントが本当に欲し、重視し、報いようとしているものが何であるかを知らせる。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2010年4月24日号)

経営者のための理念・哲学

柳ではなく松になれ

河村 太市 (松風会理事長)

1. 教育者である吉田松陰先生が最も重視したのは、若者の個性を大切にすることです。先生は人間の個性を「真骨頂」という言葉で語られました。若者たちが自らの個性、そして本質を知るように導く。先生によれば、自らを知ってこそ、人生で最も大切な志を立て、最後までやり抜くことができる、ということなのです。
2. 松陰先生がよく話された言葉に、「松柳の例え」があります。柳という木は確かに成長が速い。しかし、強い風が吹けば、すぐに折れててしまう。一方、松は成長が遅くて、なかなか大きくならない。しかし、冬でも枯れずに、岩肌にも根を張って、しっかりと成長していく。「柳ではなく、松になれ」。目先の出世やカネ儲けに汲々とせず、自らの志をやり遂げる気概を持つことの大切さを話されています。

(参考:「日経ビジネス」2010年5月3日号)

ワンポイント経営アドバイス

「ものづくり」は人の役に立つため仕事

小関 智弘 (元旋盤工、作家)

1. 「ものづくり」とは何なのか。自然の中にある原料に、人がさまざまな手を加え、新しい価値を生み出していく、これが「ものづくり」だと言われています。しかし、「ものづくり」によって生み出される価値にはもう一つ大事なものがあると考えています。それは「使用価値」です。人が使用して価値あるものになります。
2. 「ものづくり」は、こうして人の役に立つ「使用価値」を生むところにいちばんの命があります。「使用価値」を生んだ結果として商品価値がついてくるのです。「ものづくり」は、単なるおカネ儲けの手段ではありません。人の役に立つための仕事なのです。

(参考:「週刊東洋経済」2010年5月15日号)

古典に学ぶ

「修身教授録」・語録 50 選 (その 8)

1. 「楽天知命」とは、天命を信ずるが故に天命を楽しむ境涯なり。
2. わが身にふりかかる一切事すべてこれ天意なり。
3. 逆境こそは神の恩寵的試練なり。
4. 人生の事すべてプラスがあれば必ず裏にマイナスがあり、表にマイナスがあれば、裏にプラスがある。
5. 神は至公至平であって、神の天秤は、例外なく絶対平衡。
(参考:森 信三「修身教授録抄」):致知出版社